



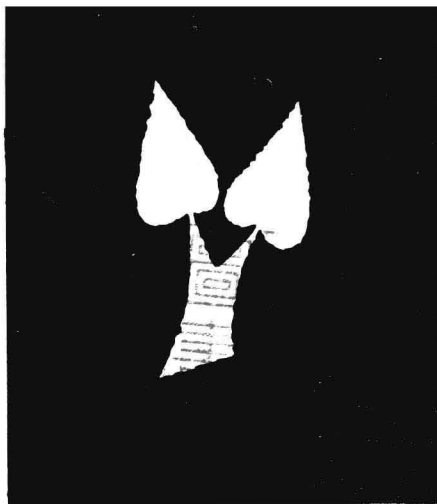
たのしい西洋詩歌への招き

がちょうの歌

万足 卓

少年少女
教養文庫

14



たのしい西洋詩歌への招き

が が がが歌

少年少女教養文庫 14



■ たのしい西洋詩歌への招き がちょうの歌

少年少女教養文庫 14

定価 680円

1966年 9月24日 印刷

1966年 9月30日 発行

著 者 万 足 卓

発行者 東京都新宿区揚場町 1

牧 義 雄

編集者 吉田織絵・和田治子

印刷者 東京都千代田区神田神保町 3—23

塚 田 重

発行所 東京都新宿区揚場町 1

株式会社 牧書店

電話 (269)2081~4

振替 東京196483

〔落丁・乱丁の本はおとりかえいたします〕



まえがき

これはがちようの歌であつて、白鳥はくちょうの歌ではありません。フランツ・シューベルトが三十一歳でなくなつたあとには、作曲された歌が、まだ十四編べん残つていました。それをひとまとめにして「白鳥の歌」と名づけたのは、白鳥という鳥が死ぬまぎわにいちばん美しくうたうといわれているからでした。いいえ、これはそんなしんみりな最後の歌を集めたものではありません。これは、たとえてみれば、がちようがおしりをふりふり、ぶきように歩きながら、黄色いクチバシをたたいうたう歌、そんな最初の歌から集めはじめたものです。

わたくしは、これらをドイツ語の詩歌しいかから集めました。ドイツ語が話されているドイツ、オーストリア、スイスなど、つまりヨーロッパの中部あたりは、さすがにゲーテやハイネやシューベルトやベートーフェンなどの生まれた所だけに、りっぱな詩歌が、りっぱな



音楽に負けないくらいたくさんあります。しかし詩歌は、音楽のように耳でだけ聞いて鑑賞するわけにも、あるいは絵画のように、目でだけ見て鑑賞するわけにもいきなひのです。たくさんりつぱな詩歌が、わたくしたちには、まだほとんど知られないままになっています。もはや、音楽も絵画も、彫刻も建築も、演劇も小説も、科学技術もスポーツも、ほとんどすべての文明や文化が國際的になり、世界じゅうの共通の持ちものになろうとする今日、民族の心の声である詩歌が、まだ秘密のまま残されているとは、なんとくやしいことでしょう。

それには理由がないわけではありません。外国の詩歌をわたくしたちが一般に鑑賞するためには、外国の詩歌をわたくしたちの國語の詩歌になおさなければならぬのですが、二つのことばは構造、語感、音韻などがまったくちがっているため、それはなによりもやつかいな、むずかしい仕事に属するのです。月の裏をのぞいたり、火星から土をとってくるよりも、なおむずかしく、なおあふない仕事であるかもしれませぬ。



この仕事にとりかかるためには、とくに、しんちようでなければなりません。音楽を習うための音階おんかいの練習れんしゅうや、絵画を習うためのデッサンの習得しゅうとくにあてはまるような基礎訓練きそくねんが詩歌にはないので、まず順序じゆんじよとして、いちばんかんたんな最初の詩歌から出発して、少しずつ前へ進むよりほかに方法はありません。そして、そのようにしてできたのがこの「がちょうの歌」です。したがって「がちょうの歌」のとくに初めのほうの部分は、いわゆる童謡どうようやわらべ歌わらべうたが集めてあります。それらは、おとなの目にはいくらか幼稚ようちにみえることでしょうが、しかしけつして幼年ようねんのためばかりのものともかぎりません。かつて幼年でなかったおとなはひとりもなく、幼年とまったく無関係むかんけいのおとなもすくなくはらずです。世界じゅうのすべての民族に共通のふるさとはあるとすれば、それは幼年時代でしょう。そして童謡どうようやわらべ歌は、そのふるさとの歌であるといえましょう。詩歌の純粹じゆんずいなものとがここにみられます。そしておとなの詩歌はこの、とから成長したものです。

詩歌は成長します。子どもたちが成長するように。その子どもた



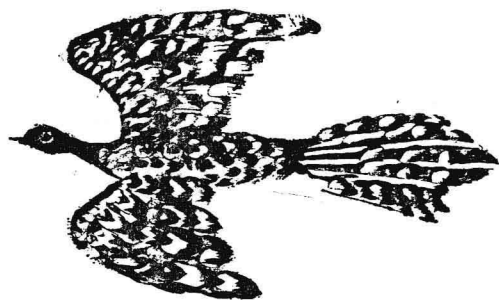
ちといっしょに、詩歌の成長するあとをボチボチと追って、やがては西洋詩歌という未知^{みち}の世界へ、ゲーテやリルケなどの住む世界へ、わたくしたちもいっしょにはいつていきたいものとねがつています。

もしそれが、わたくしのねがいすぎでしたら、どこかのカナリアがわすれた歌を思いだすための、よすがともなってくれるとよいと思います。

一九六六年 東京近郊町田にて

万 足 卓

さしえ・カット／富山妙子
そうてい／有井泰

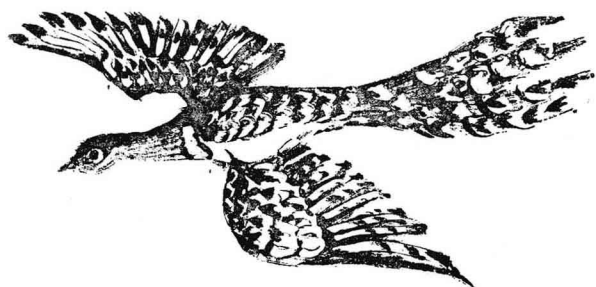


たのしい西洋
詩歌への招き
がちようの歌・もくじ

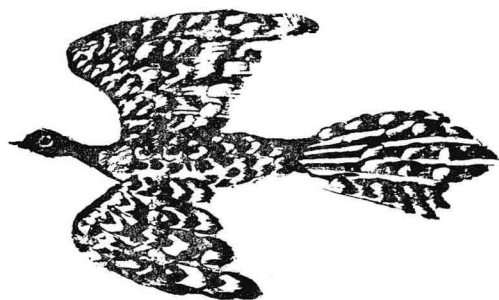
まえがき.....一

第一部 歩く鐘.....一

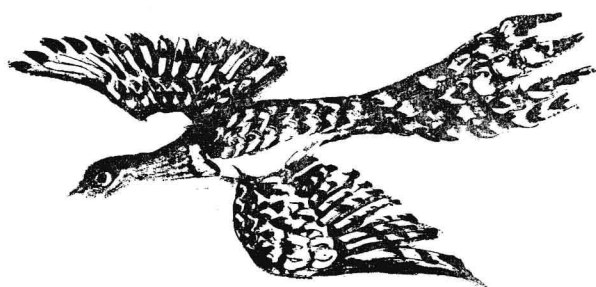
- | | | |
|----|------------------|----|
| 1 | 月と日と星／わらべうた | 2 |
| 2 | ちようちん／わらべうた | 3 |
| 3 | でんでん虫／わらべうた | 4 |
| 4 | わすれなそう／ファラースレーベン | 6 |
| 5 | ブンブンブン／ファラースレーベン | 8 |
| 6 | モーモーモー／わらべうた | 10 |
| 7 | 子やぎ／わらべうた | 11 |
| 8 | あひる／わらべうた | 12 |
| 9 | ワニ／わらべうた | 14 |
| 10 | おにごっこ／わらべうた | 15 |
| 5 | もくじ | |



- | | | |
|----|------------------|----|
| 24 | どこへでもつれてつもらいた | 41 |
| 23 | ABCのお医者さん／ハイデマーク | 39 |
| 22 | 箱／わらべうた | 38 |
| 21 | かわいいリンゴ／ペスタロッチ | 36 |
| 20 | お休み／キヨルナー | 34 |
| 19 | 歯がはえた／クラウディウス | 33 |
| 18 | 子を寝かす母／クラウディウス | 31 |
| 17 | 月夜の子もり歌／クラウディウス | 28 |
| 16 | 眠れよ、よい子／わらべうた | 26 |
| 15 | 雨／わらべうた | 23 |
| 14 | あまだれ／わらべうた | 22 |
| 13 | かえるの王さま／グリム童話 | 20 |
| 12 | ヘンゼルとグレーテル／グリム童話 | 18 |
| 11 | おかしの家／グリム童話 | 16 |
| 10 | い坊やの歌／リュケルト | 14 |



- 25 がちようのなかのコビト／リュケルト 44
- 26 がちようの歌／ファラーズレーベン 48
- 27 冬ふいふい／ファラーズレーベン 50
- 28 すみれ／シュトルム 53
- 29 牛／シュトルム 54
- 30 ニワトリとコイ／ハインリヒ・ザイデル 56
- 31 青いみ空に光る星／ハイ 58
- 32 子どもの説教／作者不明 59
- 33 子どもの祈り／わらべうた 61
- 34 小人国／作者不明 62
- 35 大人国／フラウングルバー 64
- 36 ヤコブはどこに／アルント 66
- 37 三人兄弟／カール・ブッセ 68
- 38 あの山越せば／カール・ブッセ 70
- 39 がちようがとんだ／民謡 71
- 7 も く じ



54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40
警句／ゲ－テ	別の五つ／ゲ－テ	目と心／ゲ－テ	星のごとく／ゲ－テ	かえる／ゲ－テ	歩く鐘／ゲ－テ	望み／ゲ－テ	魔法使いの弟子／ゲ－テ	妖精の歌／ゲ－テ	魔王／ゲ－テ	あなたごぞんじ／ゲ－テ	野ばら／ゲ－テ	もみの木／民謡	青・青・青いきものきて／民謡	おじいさんとおばあさん／民謡
106	105	102	99	97	95	94	88	86	83	81	78	76	74	72



第二部 春の土……………一一五

55 塔もりリンコイスの歌／ゲーテ 110

56 市民の義務／ゲーテ 112

57 詩は教会のステンドグラス／ゲーテ 113

58 三人の王さま／ハイネ 116

59 ふたりの近衛兵／ハイネ 118

60 ままごと／ハイネ 121

61 漁師小屋の軒下で／ハイネ 124

62 風／ハイネ 126

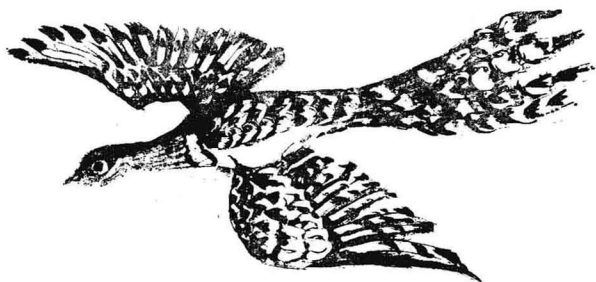
63 赤い靴／ハイネ 129

64 忠犬／ハイネ 136

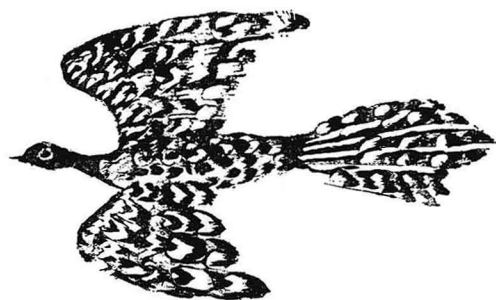
65 母と子／ハイネ 133

66 ぼくの故郷／ハイネ 138

67 子どもの時代／ヘッベル 140

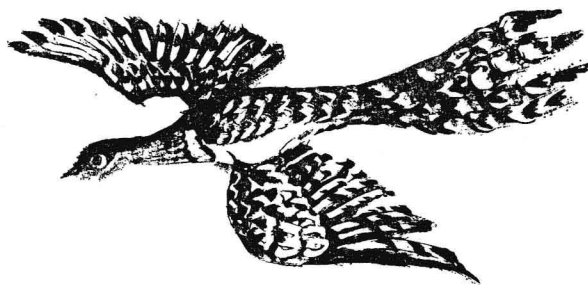


- 80 二種のことば／エブナー・エシエンバッハ 170
- 81 海べ／シュトルム 167
- 82 眠られず／シュトルム 166
- 79 琴弾きの歌／ミュラー 164
- 78 秋のなげき／ウインクラー 162
- 77 春の朝／ウインクラー 161
- 76 春の歌／ヘルティ 159
- 75 朝の歌／シラー 158
- 74 屋根の上でにわとりが／アイヘンドルフ 156
- 73 なくなつたわが子に／アイヘンドルフ 153
- 72 なくなつた子に／ウーラント 151
- 71 ひばり／ウーラント 149
- 70 春／ウーラント 148
- 69 仇討ち／ウーラント 146
- 68 宿屋／ウーラント 144

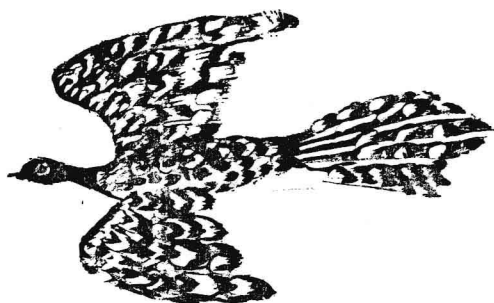


97	だれかぼくに言ってくる／リルケ	197
96	ぼくが居るのは／リルケ	195
95	タベ／リルケ	194
94	雲／リルケ	192
93	風／リルケ	190
92	時効の旅／ゲオルグ	188
91	島もり／ゲオルグ	185
90	三羽のすずめ／モールゲンシュテルン	183
89	動物園で／モールゲンシュテルン	181
88	夏の庭／イナ・ザイデル	179
87	夕雲／C・F・マイヤー	178
86	海の歌／C・F・マイヤー	176
85	五月の日／C・F・マイヤー	175
84	語り合い／C・F・マイヤー	172
83	ま昼／フォンタース	171

11 も く じ



112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98
枯れ葉／ヘッセ	ときどき／ヘッセ	ひとり／ヘッセ	題はなく／リルケ	天使たちから見たら／リルケ	重力／リルケ	冷たい山から／リルケ	春の土／リルケ	ばらの内／リルケ	豹／リルケ	貧しい人の家は／リルケ	ひと時／リルケ	男子／リルケ	ある日の子ども／リルケ	落ち葉／リルケ
228	226	224	223	221	220	218	215	213	210	207	205	203	201	199



読書のよろこびと

発展のために……………滑川道夫
増村王子

二四九

121	ぼくのにいさん飛行機乗り／ブレヒト	244
122	子どもの歌／ボルヒェルト	245
123	夕べの歌／ボルヒェルト	247
120	梅の木／ブレヒト	242
119	わし／ブレヒト	240
118	おとめの歌／ホフマンスタール	238
117	子に語る母／ゲース	236
116	霧のなかで／ヘッセ	234
115	野を越えて／ヘッセ	233
114	白樺／ヘッセ	231
113	秋／ヘッセ	230